第９号
平成14年３月20日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

“Open class”地域の学習期待に向き合うために

本年度は、大学開放に関して、いくつか示唆的なことがありました。

一つは、各地の大学にて幅広い「授業開放」の試みがなされつつあることです。大学のあり方が問い直される中で、「地域に開かれ、高度な知的サービスにこたえる大学とはどういうものか」ということが追求されはじめています。これに対し、信州大学が出した回答は、「市民開放授業」というものでした。半期15コマの授業時数全部を、大規模に開放するという取り組みがなされることについては以前も報じさせていただきましたが（センターニュース８号、９月１日付)、このことは各地でかなりの話題になりました。昨年10月に富山県で開催された「全国国立大学生涯学習系センター協議会」においても、この取り組みについて熱心に論議する場面がありました。現在、複数の大学で幅広い授業開放に向けての取り組みが進められつつあるようです。授業開放は、日常的な教育活動の一部を開放するという、きわめてオーソドックスな方法ではありますが、しかし同時に、きわめて自然に大学らしい知的サービスをおこなうものです。

信州大学が実施した「市民開放授業」のアンケート調査をみると、以下のようなことが読みとれます。受講生を世代的にみると、20代５％、30代15%、40代22%、50代23%、60代26%、70代10%となっています。職業についてみると、主婦・無職その他が58%に対し、何らかの職業をもつ勤労層が42%です。男女比はそれぞれ49%／51%となっており、ほとんど差がありません。一般に「生涯学習は年輩の方の利用が多い」「趣味的なものが多く、教養・職能面での参加が少ない」という指摘がありますが、そう





した見方とは異なり、「幅広い授業開放は、幅広い学習参加を促す」ことを感じさせます。受講生の具体的な声を聞いてみると、「自分にとって適切であった」(96%)、「期待通りだった」(80%)。自由記述では、「学生との交流に不安もあったが、はじまってみると楽しく学習しています」「授業内容は大変わかりやすく、毎週火曜日が来るのが楽しみ」。このような高い学習意欲と充実感を反映してか、欠席回数0～2回のものが94%にのぼり、市民受講生たちのかなりまじめな受講態度をうかがわせます。ただ、実施にはいくつかの事前調整が必要でしょう。正規学生向けの授業を円滑に進める上で、公開の適否を検討することも必要です。さらに、指導の上で「受講者には難しすぎただろう。手続前に相談することが望ましい」という声もあるように、受講者の適切な科目選択のサポートを検討する必要があります。

これらをふまえ、本センターでは、「第3回大学開放推進懇話会」において、正規授業の全面公開をめざす「富山大学オープン・クラス（仮称）」の構想を提起し、検討を求めました。委員からはさまざまな意見が出されましたが、中でも、「授業を開放するのは、今では当たり前。どういうビジョンをもって大学開放を推進していくか考える必要があるのではないか」とのご意見は印象的でした。3月5日におこなわれたセンター運営委員会では、「富山大学オープン・クラス」の実施に向けて全学の各方面で協議を深めていくことが了承され、今後、活発な論議の中で具体的な像を模索していくことになりました。

地元紙は「市民の受講機会は格段に増え、幅広いカリキュラムの中から自由に選択することができる。富山大には、県民生涯学習カレッジで学んだ後のステップアップ講座の開設など、多くの要望が寄せられており、オープン・クラスの活用で、可能性はさらに広がる。」と報じました。幅広い授業開放が、地域との連携、大学の活性化の両面にとって大きな前進になると確信されます。

二つ目は、「市民の学習要求の高さ」ということについて考えさせられる出来事がありました。学内の諸先生・職員の皆様方のおかげで、平成13年度の富山大学公開講座は、全36講座という大規模な取り組みとなりました。この数は全国でも有数の開講数となりましたが、それ故にＰＲ活動も従前通りとはいきません。そこで、センターの中で、「ビラやパンフレットを置いてくるだけでは十分ではない、試験的に折り込み広告をやってみよう」ということになりました。予算的に苦しい中、「大冒険」の感がある取り組みでしたが、やってみたら、問い合わせの電話が数日鳴りやまず、という状態になりました！

これは、「教育県」として名高い富山の生涯学習基盤の厚さを象徴していることなのかもしれません。いずれにせよ、市民の熱心な「学習への期待・要求」というものがたしかにあるということを実感させられる出来事がになりました。

生涯学習教育研究センターは、皆様とともに開かれた大学としてより望ましいかたちを模索していきたいと考えています。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。



13年度公開講座、すべて終了

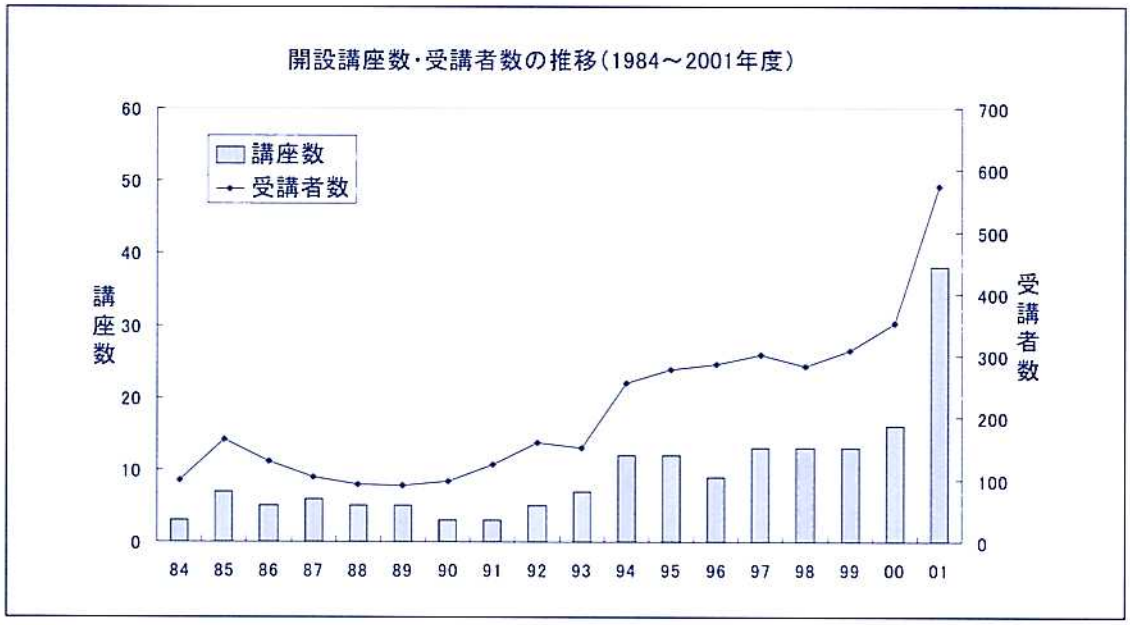
本年度の公開講座も、１月26日～27日の親子スキー教室をもってすべて無事終了いたしました。ご協力いただいた先生方、職員の皆様方には、心より感謝申し上げます。

以下、親子スキーの感想から

- 親が教えると感情的になり、うまく教えられないこともあると思う。講師の先生方から段階的に技術レベルにあわせて教えていただき、余裕をもって子どもと接することができたのが有意義だった。
- 「スキーが好きになった、もっと滑りたい」という娘の言葉で、親として本当に参加してよかったと思った。
- 子どもが、「スキーは面白い、また来たい」と行っていました。そのことが一番よかったです。親の方もとても勉強になりました。
- 親が子供に教えるのは感情的になって難しいが、その点親子で参加するこの講座は良い。
- 他の子どもらと仲良く一泊の夜を過ごし、いい合宿経験になったと思う。







さて、今年度は、開講した講座数、受講者数ともに飛躍的な伸び見せた年でもありました。過去18年分の統計をみてみますと、図のようになります。

一般の受講者の皆様にとって、有意義な学習の機会を提供できたと思います。

全国協議会



第23回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会が、平成13年10月25日(木)～26日(金)の日程で開催されました。１日目（25日）の協議では、「公開講座等の広報活動の取り組みをどう進めるか」「高等教育機関によるリカレント教育のあり方について」「SCSの活用について」など、活発な論議がありました。２日目（26日）は、「インターネットによる大学開放の可能性」と題するパネルディスカッションがおこなわれました。久津武司氏（富山県教育委員会生涯学習室長)、柵富雄氏（インテック社）の他、本学からは長谷川総一郎先生（教育学部教授）にパネリストとしてご参加いただき、また、米田政明先生（工学部教授）には基調講演をいただきました。

この他、インターネットを通じた大学開放の先進的な取り組みとして、「東北大学ネット開放講座」を上映し（ISDN回線による)、東北大学の泉山先生にご紹介をいただきました。

多くの皆様のご協力のもと、盛況のうちに閉会できましたことを、心よりお礼申し上げます。

会議報告

◆ **第23回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会**
日時｜平成13年10月25日(木)～26日（金）
場所｜富山国際会議場

◆ **第３回富山大学大学開放推進懇話会**
日時｜平成14年2月6日(水) 14:00～17:00
場所｜富山大学事務局大会議室

◆ **第１回生涯学習教育研究センター運営委員会**
日時｜平成14年3月5日(火) 10:30～12:10
場所｜生涯学習教育研究センター会議室
議題｜(1)次期センター長候補者の選考日程について
(2)富山大学の授業公開について
(3)その他

◆ **第２回生涯学習教育研究センター運営委員会**
日時｜平成14年3月29日(金) 10:30～
場所｜生涯学習教育研究センター会議室
議題｜(1)次期センター長候補者の選考について
(2)その他

◆ **第１回公開講座専門委員会**
日時｜平成13年11月12日(月) 15:00～
場所｜生涯学習教育研究センター会議室
議題｜(1)平成14年度公開講座等の実施計画について
(2)その他

◆ **第２回公開講座専門委員会**
日時｜平成13年11月12日(月) 15:00～
場所｜生涯学習教育研究センター会議室
議題｜(1)平成14年度公開講座等の実施計画について
(2)その他

◆ **第３回公開講座専門委員会(持ち回り)**
日時｜平成14年２月26日(火)
議題｜(1)平成14年度公開講座実施経費要求書等の提出について

◆ **第１回生涯学習教育研究センター自己点検評価委員会**
日時　平成14年３月29日(金)
議題　(1)生涯学習教育研究センターの自己点検評価について
(2)その他



発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960